





## 目 次

電子ジャーナルを巡って	1
株式投資と実学志向	2
人獣交渉－千葉徳爾『狩獵伝承』を読んで－	3
カリフォルニア大学バークレー校図書館、 スタンフォード大学図書館を訪問して	5
図書館での読書会－洋書を読む－	7
平成17年度読書奨励事業 「佐賀大学の学生にすすめる本」実施報告	9
第5回 図書館月間を開催	10
～新しいPC端末と Webサービスを紹介します～	12
受入資料紹介	13
図書館統計 平成14年度～平成16年度	16
人事異動	19
図書館日誌（会議・研修・来客等）	20
表紙解説 「寛永行幸記」	

## 電子ジャーナルを巡って

附属図書館長 小倉 幸雄

平成18年1月18日の国立佐賀大学法人平成17年度第19回役員会において、平成18年度国立大学法人佐賀大学における予算編成方針についての審議が行われ、本学における電子ジャーナルの購入方針が決められた。それは、電子ジャーナル経費については学長経費のうちの「中期目標実行経費」から必要な額を確保するというものであり、このことを含む予算編成方針は1月20日に開催された第9回教育研究研究評議会においても承認された。

上の購入方針でいう必要な額とは、附属図書館電子ジャーナル専門委員会が平成17年10月に提出した「佐賀大学における電子ジャーナル整備について(検討報告書)」の内容に対応するもので、主要5出版社の総合パッケージElsevier Science Direct, Wiley InterScience, Springer-LINK (旧Kluwerを含む), Blackwell Synergy, Natureの購入に要する額(見積り額約6千2百万円)であると解釈される。文部科学省から交付される運営費交付金が毎年減少するという厳しい財政事情の中で、本件について英断を下された当局、またそれに理解を示し協力を頂いた方々に大きな敬意と深い感謝の意を表するものである。

2月21日に開催予定の平成18年度予算を審議する経営協議会で承認されれば、本学においては当面、主要な電子ジャーナルパッケージの継続的かつ安定的な供給が可能になり、これを用いて行う教育と研究のための一つの主要なインフラは整備されることになる。まずは「めでたしめでたし」であるが、これで問題がすべて片付いたわけではない。上に挙げた5パッケージ以外にも、学会系のパッケージ、大学出版系のパッケージ、アーカイブ、更には引用・文献データベースなど、購入を必要とする電子コンテンツは数多く存在するか

らである。しかしこれらは、上の5パッケージに比べると、「分野が偏っている」、「本学では知名度と要望が少ない」などの傾向がみられ、さらに、大学全体の予算は限られているという事情もあり、中央経費で購入することについて全学の合意を得るのが困難であると思われる。今回の購入計画に入れるのが見送られた所以である(上記「検討報告書」)。附属図書館が全学に提供するコンテンツとしてどの範囲のものまでを購入するかは、難しい問題であり、今後も絶えず検討を要する課題であろう。また、購入がほぼ保証された上記のパッケージについても、新たなコンソーシアムを模索するなど、価格を抑える努力を継続して行うことが求められる。

言うまでもないことであるが、電子ジャーナルは多くの分野における教育と研究のためのインフラであり、必要不可欠なものではあるが、その充実のための十分条件ではない。電子ジャーナルを必要としない分野も含めて、佐賀大学における活発な教育と研究の実現は、本学の構成員の双肩にかかっている。昨今の激しい資金獲得競争と格差拡大の嵐の中、ソウル大学の黄禹錫(ファンウソク)教授の胚性幹細胞(ES細胞)の研究(研究費5年間で約30億円)についての論文捏造問題や、東京大学の生命科学の研究(研究費6年間で約14億4千万円)についての論文捏造疑惑などの事件も起きている。これらのことについて多角的に論ずることは、本稿の枠の外にあるので差し控えるが、現実にはこれらの問題を呑み込みながら、競争的資金の割合を拡大する政策はさらに推し進められるであろう。そのような状況の中で求められる本学における、競争力のある教育と研究の充実に、図書館の提供する電子ジャーナルが重要な貢献をすることを願って止まない。(平成18年2月10日提出)

## 株式投資と実学志向

経済学部経営システム講座助教授 大坪 稔

最近、株式投資に関する話題をよく耳にするようになった。その証拠とっていいのかわからないが、最近の証券市場は大賑わいとなっているようだ。株式市場全体の値動きを代表する指標のひとつである日経平均についてみると、1980年代後半のバブル期には4万円近くまで上昇したものの、その後の不況では1万円を割り込むまで低迷していた。すなわち、バブルの絶頂期から比較すると、株価はじつに四分の一近く下落したのである。

ところが、昨年下旬から日経平均は次第に上昇をはじめ、昨年末には1万6千円を突破するまでとなった。無論、バブルの絶頂期と比べるとまだまだ低いものの、きわめて短期間のうちに株価が上昇したこともあり、株式投資がにわか注目されている。さらに、最近ではパソコンや携帯電話から株式売買の注文を行うことが可能となったため、個人投資家にとってより株式の売買が簡単にできるようになっている。

このような株価の急上昇および売買の容易さを反映してか、わたしのまわりでも「株式投資をはじめた」、「株でもうかった」などの話を耳にする。私の研究分野は経営財務であり、株式投資もそこには含まれる。経営財務では、企業の株価は理論的にはその企業が現在から将来にわたって獲得するであろうキャッシュ・フローを株主の要求する必要最低収益率で割り引くことによってもとめられる。わかりやくするために、必要最低収益率を無視し、キャッシュ・フローを「儲け」におきかえて話せば、企業の株価は現在から将来にわたっての「儲け」によって決定される。

このように、私の分野では株式の理論価格は簡単に説明されるのであるが、この考えを株式投資に実際に適用することはなかなか難しい。たとえば、今年の儲けはともかく、一年後、二年度、三年後…十年後の企業の儲けをどうやって予測すれ

ばよいであろうか？この予測は、当の経営者ですら難しいであろうから、ましてわれわれのような企業外部の投資家が正確に予測することはほとんど不可能にちかいのかもしれない。

そこで、現実的には企業が将来「どの程度儲けるのか」というよりも将来の儲けに影響を与えそうな「情報」に注目して株式の売買を行うことになる。たとえば、ある企業が革新的な技術開発に成功したというニュースが流れると、その企業の株価は急上昇する。このような株価の急上昇は、技術開発の成功が将来の企業の儲けを増やすと考えられるために生じる。そうであるならば、株式投資で利益を得るためには企業の将来の儲けを左右するような「情報」を手に入れることが重要となる。ただし、この情報は他の人よりも早く手に入れる必要がある。なぜなら、自分以外の投資家が先にこの情報を入手し、その企業の株式を購入すれば株価が上昇してしまうためである。したがって、ほかの投資家が知る前に技術開発などの情報を得て、その株式を買う必要がある。

だが、ここでもやはり問題がある。他の投資家が知らない情報をどうやって入手するのかという問題である。無論、企業の経営者や一部の従業員であれば、このような情報を得ることは可能であるが、彼らが内部情報を使って自社の株式を購入することは、インサイダー取引と呼ばれ禁止されている。

最近、大学教育における実学志向が強まりつつあるように感じられる。「実学」がすぐに何かに役に立つということを意味するのであれば、学問は実学のためだけにあるわけではないと私自身考えている。しかしながら、私の研究分野のなかでも株式投資に関してはひそかに「実学」であってほしいとも思っている。無論、私が株式投資を積極的に行わないことからあきらかなように、少なくともわたしにとって株式投資は「実学」にまではいたっていないようである。



## 人獣交渉－千葉徳爾『狩猟伝承』を読んで－

農学部生物生産学科講師 藤村美穂

千葉徳爾という人は、野生動物と人間とのかかわりについてたくさんのお書を示している。彼が行った膨大な狩猟伝承の研究を読みやすくまとめたものに、『狩猟伝承』(法政大学出版局)という本がある。1975年に書かれた本であり、熊、猪、鹿、鷹などの狩猟にまつわる全国の伝承について述べられている。

学生時代、この本を何か昔話のような遠く離れた世界の話として読んでいたのであるが、自分で各地の農山村に出かけるようになって、現在においても日本の各地に同じような話が残っていることに驚かされることが多い。

例えば、古くから狩猟が続けられている九州山地の山村には、山の神に対するしきたりや狩猟の禁忌などについて、千葉が調べたのと同じような風習が現在でも守られていることが多い。猪猟に出かけるときには猿(=去る)という言葉の口にしてはいけない、黒不浄のときは猟に出るはいけないなどである。

このようなしきたりや伝説なら言い伝えられ守られてきても、さほど不思議ではないのであるが、いまだに個人的な経験として、同じことを体験し続けていることもある。例えば「送りオオカミ」。山を一人で歩いていると、前後にオオカミが行ったりきたりしながらついてくるというものである。地方によってはスズメがチッチッチと鳴きながらついてくるということもあるという。私自身も山登りをしていた経験から、一人で山を歩いていると、自分以外の何かの足音がするような気がしてならないことがあるのを思い出しながらこの本を読んでいたところ、和歌山県の山村に行ったときに、実際にオオカミがついてきたという体験談(オオカミの尻尾がずっと手に触れた)を聞いたのである。送りスズメがついてきたという

経験談はもっと頻繁に聞いた。

千葉徳爾は、このような山の怪異談が伝承され、実際にリアリティをもって体験されてきた理由として、「狩人が死と常に対決する生活をおくっており、常人と異なる心理状態にあることが、その伝承を形成する上で重要であった」と説明している。

このように説明されれば、思い当たる話はいくつもある。以下は、怪異談ではないが、ヤギ捕り名人であるM氏に聞いたヤギの話である。

M氏の暮らす馬渡島は玄界諸島のひとつで、壱岐の25キロ南にある周囲11キロの島である。古くから人が住み着いていた海沿いの村(本村)のほとんどが仏教徒である一方、山の上にある新村は住民のほとんどが18世紀後半から戦後にかけて島にわたってきたクリスチャンたちが住んでいる。ヤギと密接なかかわりをもってきたのは、このクリスチャンたちである。

仏教徒とは違ってクリスチャンの人たちは肉を食べたため、戦後、朝鮮半島から引き揚げてくるときに、肉用の黒ヤギを持ち帰ったという。同時に、壱岐や対馬から赤いヤギも持ち込まれた。こうして、島では、昭和37、8年まではそれぞれの家でヤギを2、3匹飼っていた。肉を食べるのはたいてい冬であり、ここ何日は冷えるという日に身体を暖めるために食べたという。ヤギは農繁期には山に放して、秋になると再び呼び集めて家に連れて帰ったという。昔から飼っていたヤギは主人を覚えているので帰ってくるが、山で生まれ育った子ヤギはそのまま山で野生化し、それが現在も島に生息している。

近年になって、畑にヤギの食害が出はじめたので、M氏らは、町から駆除を頼まれたという。狩猟免許にかかわる費用は町が出すので、年に40

頭くらい捕獲するという条件であった。捕獲したヤギは自由に処分してもよかった。M氏は、500頭いたヤギが100頭になるまで数年間猟を続け、捕獲したヤギは沖縄の業者に売ったが、業者が引き取りに来るまでの間のえさ代が高くて赤字であったという。

現在は、息子と一緒にときどきワナをしかけて捕獲する程度であるが、M氏は島のヤギの動向やヤギの生態には常に目を光らせている。そのような暮らしのなかで、M氏は、研究者も信じないヤギの進化の過程にも立ち会ったという。

動物は、育てる子どもの数だけ乳頭がある。昔、この島のヤギは乳頭が4つあるものがけっこういた。70代の人みんな覚えている。そのころ、ヤギは子を一度に4～5匹産んだ。ウチで飼っていたのもそうだった。10年くらい前に、ワナをかけたとき、4つ乳頭があるのもいたが、2つの乳頭のあいだの幅が狭くなっていた。それが、もっと先には二つずつくっついて、そのあいだに溝があるという状態になっていた。そうして、しばらくたつと、二つの乳頭は完全にくっついて乳頭は2つになった。いまだに馬渡島のヤギの乳頭は牛のように大きい。島に調査に来た学者はこの話は信じなかったが、馬渡島のヤギの乳頭が大きいことは驚いていた。ヤギは年に二回子どもを産み、一年で妊娠できるようになるのだから、10年に10代かわるのだから不思議ではないとM氏はいう。

この他、猟の話など、M氏の経験談をきいていると興味はつきないが、先ほどの千葉徳爾の本との関連で興味深いのは、「ヤギとカラスの仲」についての話である。ヤギは、追われたときでも、絶対に土のうえで向きをかえず、岩の上で向きをかえるので、足跡や臭いから追跡するのも難しいという。さらに、M氏によると、ヤギには学習能力があつて、人間のジェスチャーも覚える。捕獲のときに、中学生の息子と手振りを交えながら打ち合わせをすると、ヤギに進路を悟られるため、息子は、ヤギは「人間の言葉をわかっている」と信じているという。このようにヤギ自身が頭がいい

えに、ヤギには仲間がいる。それはカラスである。

M氏によると、カラスはよくヤギの背中によってダニを食べているので、カラスとヤギは仲間である。山を通ろうとしたらカラスがさわぐことがある。そうすると、必ずヤギがいなくなる。カラスがヤギに危険を教えているのである。

『狩猟伝承』にも、動物が人の言葉を悟るといふ話は多く記されている。例えば、家の屋根裏のネズミが人の言葉を知って動物に伝えるので、狩の前夜に猟の打ち合わせをするときには、猟場を口に出してはいけないなどである。上にとりあげたM氏は、伝統的に狩猟を行ってきた地域の人でもないし、宗教もクリスチャンであるにもかかわらず、千葉の本に出てくる各地の伝承と同じような口調で同じような話をされるのがとても興味深かった。

## カリフォルニア大学バークレー校図書館、 スタンフォード大学図書館を訪問して

図書情報係長 福島正徳

5月にアメリカ合衆国西海岸を代表する大学であるカリフォルニア大学バークレー校図書館(UC Barkley Library)、スタンフォード大学図書館(Stanford University Library)を訪問した。

バークレー校図書館では図書館スタッフによる図書館ツアーに参加した後、日系人スタッフから話を伺った。印象的だったのは、州立大学にもかかわらず敷地内の建物がすべて寄附金によって建てられているということであった。大学OB等の要人が大学を訪れた際には、図書館職員が率先して案内役の任にあたっているとのことであった。



【カリフォルニア大学バークレー校図書館】



【バークレー校図書館：階上から吹抜けを撮影】

スタンフォード大学は全米屈指の広大なキャンパスを持ち、敷地内の建物がキャンパス色ともいべき薄茶色で統一されているのが印象的であった。

図書館では、スタッフに館内を案内していただいた後意見交換を行った。電子ジャーナルの選定について伺ったところ、選定には頭を悩ませているとのこと、スタンフォード大学のような予算が潤沢な大規模大学でも事情は同じであることを感じた。選定に当たっては、図書館がリーダーシップをとりタイトルごとに選定し、各分野のサブジェクト・ライブラリアンが学部教官との調整に当たっているとのことであった。日本の国立大学で主流となっているパッケージ型電子ジャーナルの導入という考え方とはだいぶ異なっていることを感じた。



【スタンフォード大学風景】



【スタンフォード大学図書館】

今回訪問した両大学はアメリカでも有数の大学であり、規模等の点で佐賀大学とはかなり異なっているが、大学の外部資金の獲得のために図書館が積極的に一役を担っていること等、法人化した大学の中で図書館が果たすべき役割等について参考にすべきことを学ぶことができたと思う。

また両大学図書館の訪問の間に、日本の大学生協が共同出資するCOP(Co-op Online Pacific Inc.)を訪問した。COPは大学生協からのオーダーを受けて、大学図書館向けに洋書の供給を行っている会社である。10名に満たないスタッフで運営されているが、スタッフのてきぱきとした業務が印象に残った。



【COPオフィス】





## 図書館での読書会－洋書を読む－

教育学研究科 教科教育専攻 英語教育専修2年  
「Good Luckを読む会」チューター

古川 晃子

平成17年度、図書館の新しい企画が春の息吹とともにスタートした。1年を通して、英語の本を読むという、まさに読書会の英語版をしようというのである。実際、日本語の本を読む読書会は、すでに立ち上がっていた。図書館で読書会を英語の本を用いて行う目的は、学生に英語に親しむ機会を提供することと、図書館の利用を参加者に促すことである。

この読書会の特色は、やはり、英語で読むという点であろう。この特色を最大限に活かすため、企画の段階で本の選出に力を入れた。英語と内容の両面において、易しすぎても難しすぎてもいけない。学生の興味をひくものを選ぶのである。図書館の職員の方々と話し合っただけで、当時ベストセラーになっていた『Good Luck』（田内志文訳）の原書である *Good Luck* (Alex Rovira と Fernando Trias de Bes の共著) だった。同じくベストセラーのハリー・ポッターシリーズの原書も候補に挙がっていたが、読み手と量を考慮して *Good Luck* にした。この本は、「読む人によって、伝説書にも、哲学書にも、ビジネス書にもなる」と紹介されているが、人生について深く考えるのに豊富な時間がある大学生や大学院生に、幸福とは何かを再考する場を設けるのは意義深いのではないかと考えた。

読む本を選んだ後は、読書会を行う頻度や時間、具体的な場所を決め、広告をうつ。結局、隔週で大学の授業と同じ90分を図書館3階のグループ演習室で行うことにした。図書館の職員の方々のご尽力もあって、順調な滑り出しだった。図書館前に、看板を置くなど目を引く広告をしていただいたのだが、参加者が少なかったのは残念だった。参加者は、最大で5人であったが、参加者の数だけ

けが重要なものではもちろんない。図書館初の試みである英語の本を読む読書会の内容、つまりその質も問題である。

読書会の内容については、図書館の職員の方々から一任されていたので、参加者の数や進度、その場の雰囲気等を考慮して毎回（全部で13回）自由に行った。そのため、チューターも参加者も常に楽しく読書会を遂行することができたと思う。行う側として工夫した点は、なるべく参加者に拘束感を与えないことである。時間の都合がつくときに参加すればよい、途中参加もよい、極めつけは予習しなくてもよいといった感じである。授業外のイベントへの学生の自主参加を尊重すると、このような形式に落ち着いた。参加者にそれぞれ英語の基礎力はあったので、その場で辞書を片手に英語の本を読むのに困難はさほどなかった。進行や、文法的につまずいた箇所への助言と解説がチューターの役目で、講義形式にはしなかった。参加者に一文ずつ意味をとらせ、音読を多く取り入れ、内容について質問を時々行うなど、なるべく参加者からの発言を引き出そうと試みた。

最後に、2人の参加者からの感想を紹介したい。「単純に楽しかった。原書を読む会と聞いたとき、英語の勉強というのが浮かんた。英語の長文のイメージがあった。中学、高校と勉強するにつれ、嫌なイメージだけが残っていたからだと思う。しかし、実際は、英語の勉強というより英語に触れるという感じだった。だから、ずっと楽な感じでやることができました。一人ではなく、何人かで本を読んでいくというのも自分にも幅を広げられました。何よりあの雰囲気が好きでした。この機会に出会えたこと、企画された方々、チューター

一の方には本当に感謝しております。ありがとうございました（経済学部1年Nくん）。」「今まで、洋書を読むことに気がひけていたのですが、*Good Luck*を読む会で洋書に親しみが持てるようになりました。チューターが居てくれて、文法の面、例えば文法の意味する感情の面など、そして内容の面、例えば意見交換をしたり、前回の内容を振り返ったりなど、単なる授業とは違った感じで楽しかったです！ありがとうございました（農学研究科1年Nさん）。」

他に図書館の職員の方や、学生2人からの参加があった。前例がなく、暗中模索しながらも、図書館の職員の方々からのやさしいお心遣いと参加者からの継続した熱意のもと、会は当初の目的を少しでも果たすことができたと思う。しかし、課題点は2つあると考える。一つは、参加者を増やすために広告の改善をどのようにしたらよいか。もう一つは、参加者の図書館の利用の促進について再検討することである。会に参加した学生が、別の洋書に挑戦してみようとするとき、図書館の洋書は応えることができているか。幅広い読者層を意識した洋書の所蔵を考慮すべきかと思う。課題点はあるが、改善をして今後ももっと楽しい読書会になることを願いたい。

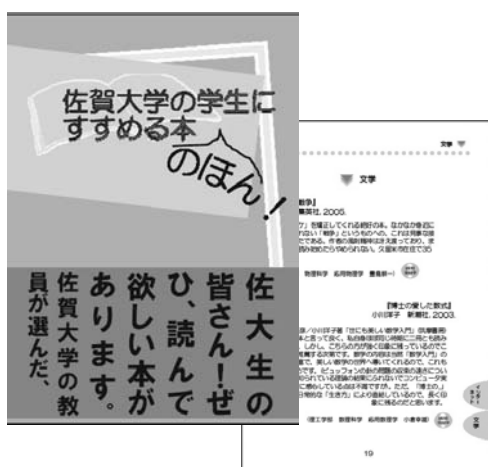


## 平成17年度読書奨励事業 「佐賀大学の学生にすすめる本」実施報告

平成17年度の読書奨励事業として、「佐賀大学の学生にすすめる本」プロジェクトを実施しました。発端は、文化教育学部（当時3年生）の末永直さんの、「先生方の最も感銘を受けた本について、それぞれの先生と語り合ってみたい」という提案でした。若干実施形態は変わりましたが、本学の教員に依頼して、学生にすすめる本を推薦して頂きました。それを図書館で広報するとともに、推薦された本を収集する作業を進めました。また、学生が推薦された本を読んで感想などがあれば、図書館が受け付ける態勢をとっています。

先生方より54冊の本のご推薦があり、図書館では、それを『佐賀大学の学生にすすめる本のほん』という冊子としてまとめ、11月に開催した図書館月間で配布するとともに、閲覧室に「佐賀大学の学生にすすめる本」コーナーを設け、絶版で入手できなかったものを除いてすべて配架しました。

冊子は好評で残部はわずかとなり、コーナーでは立ち止まって見入っている学生が見受けられました。本冊子が本学学生の読書活動の動機づけと指針になることを願っています。



### 「佐賀大学の学生にすすめる本」貸出ベスト4

- ①『博士の愛した数式』  
小川洋子著 新潮社、2003.
- ②『タンパク質の構造入門』 第2版  
カール・ブランデンほか著、勝部幸輝ほか監訳  
ニュートンプレス、2000.
- ③『新ゴーマニズム宣言SPECIAL靖国論』  
小林よしのり著 幻冬舎、2005.
- ④『菊と刀：日本文化の型』  
ルース・ベネディクト著、長谷川松治訳  
講談社、社会思想社ほか



【本館】



【医学分館】

「佐賀大学の学生にすすめる本」コーナー

## 第5回 図書館月間を開催

今年も学内外者に図書館利用の活性化や一般市民の図書館利用の促進を図る目的で、11月を図書館月間として位置付けし、文化講演会の開催、公開セミナーの開催、貴重コレクションの展示、学内の教員へアンケート実施した「佐賀大学の学生にすすめる本—本学教員による図書案内—」結果の発表を行ない、また推薦文とアンケート結果を小冊子にまとめ配布用として備えると同時に図書の貸出を開始した。

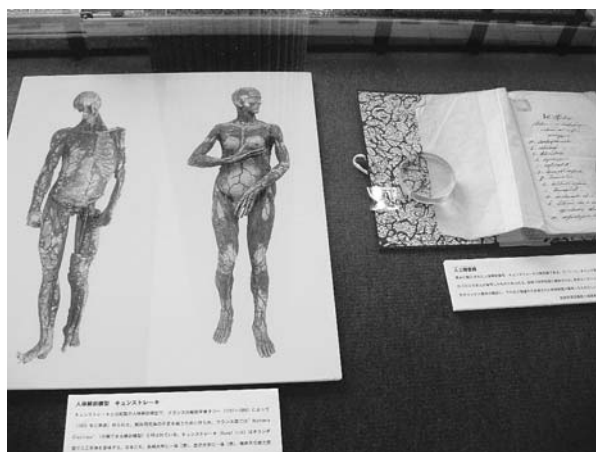
### 1. 貴重コレクション展示

今年の貴重コレクション展示は小城鍋島文庫から人工體普録1冊（人体解剖模型「キュンストレーキ」解説書）を展示した。これは幕末期に小城鍋島藩から長崎に派遣された医師相良柳逸が書き写したものであろうとされているものである。同時に福井市立郷土歴史博物館から借用した同模型の写真パネルも展示した。

また、もうひとつの展示「相良知安展」を11月14日～11月22日に開催した。

幕末から明治期にかけて最初に日本に医学・医療制度の基礎を築き、ドイツ医学導入の功績があった相良知安子孫の相良隆弘氏（佐賀在住）から資料を借り受け、「相良知安展」として同氏所蔵の写真、文書類を図書館1階エントランスホールで公開展示した。

例年以上に来館者が多く、初めて相良知安を知った人もあり大いに好評だった。



### 2. 公開セミナー

昨年度未開催の公開セミナーを図書館月間に併せて開催した。

1回目は11月16日(水)に「大学広報とメディア」を佐賀大学文化教育学部教授早瀬博範氏、2回目は11月18日(金)に「地域に生きる～支え合いの社会を目指して」を佐賀新聞社報道局長 寺崎宗俊氏、3回目は11月28日(月)に始めに「テレビの内外～佐賀放送局の取り組み～」をNHK佐賀放送局放送部長 亀井嘉



朗氏、引き続いての「ふれあいミーティング」をNHK佐賀放送局局長 阿世知幸雄氏他NHKスタッフが行った。

大学、新聞社、放送局のそれぞれの見地から、メディアの効果的活用、報道の使命、地域への貢献等の講演の後、質疑応答及び意見交換が行なわれた。特に最後の「ふれあいミーティング」では活発な学生の発言で大いに盛り上がった。



### 3. 文化講演会

昨年に引き続き講師に前佐賀市収入役上野信好氏を招いて平成17年11月29日(火)15時00分～17時00分に「芭蕉の内なる西行」と題して講演会を開催した。

講演では、芭蕉が西行についてどのような想いでいたか、「西行を私淑した芭蕉」、「芭蕉の旅と西行の旅」、「死生観にみる西行と芭蕉」のレジメに沿って、配付資料とスライド等で講演され好評であった。

講演後のアンケートには、／芭蕉の知らない一面が良く判りました／ 明解に説明を頂き非常に解りやすかった／ 西行と芭蕉の旅の人生、西行歌と芭蕉の句の世界のはなしに時間が経つのを忘れました／ 義経(NHK)ドラマが更になりました／ 今日講演のありました所へ行きたい／等の意見が寄せられ好評であった。



# ～新しいPC端末とWebサービスを紹介します～

## ■新しく設置されたPC端末について

平成18年3月1日から、附属図書館の新システムの導入に伴い館内のPC端末が増設されました。本館自由閲覧室に32台、1階フロアに23台の新しいPC端末が設置され、旧PC端末にはなかった新機能として、総合情報基盤センター（旧学術情報センター）の演習室と同じ環境で利用することができるようになりました。加えて今までは一部の端末に限られていた、WordやExcel、PowerPointなどの、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成のソフトが利用できるようになり、またプリンターも2台導入されたことで、資料や情報の提供に加え学生の学習そのものに寄与できる環境が整いました。



自由閲覧室

て、総合情報基盤センター（旧学術情報センター）の演習室と同じ環境で利用することができるようになりました。加えて今までは一部の端末に限られていた、WordやExcel、PowerPointなどの、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成のソフトが利用できるようになり、またプリンターも2台導入されたことで、資料や情報の提供に加え学生の学習そのものに寄与できる環境が整いました。

## ■Web画面から利用できる図書館サービスの充実

今日、資料の情報化や電子化に伴い、図書館の提供するサービスも多様化しています。今回、図書館サービスをひとつの入口から利用できる、図書館ポータルサイトをホームページに開設しました。ポータルには、図書館への質問や要望、貸出予約・貸出状況、学生希望図書購入依頼、施設予約、蔵書検索（OPAC）などのメニューがあります。図書館に来館することなく、Webでどこからでもアクセス可能であること、また、さまざまなサービスメニューを、利用者1人1人の利用内容に応じてカスタマイズできるところが大きな特徴です。また、貸出予約・貸出状況に関しては携帯電話からのアクセスにも対応しています。もちろん、今までどおり蔵書検索や図書館開館案内も利用できるようになっています。詳しくは附属図書館ホームページ（<http://www.lib.saga-u.ac.jp/>）をご覧ください。

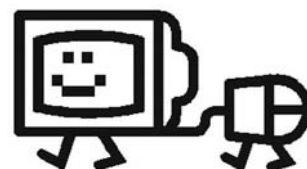


1階南側フロア

より使いやすくなった図書館を、情報サービスの拠点として活用してほしいと同時に、もっと気軽に図書館にアクセスしてほしいと期待しています。



図書館ポータルサイト



## ● 受入資料紹介 ●

### ●学生用図書

平成16年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入しました。(冊数はいずれも非図書資料の点数を含む。)

教員推薦図書	822冊
学生希望図書	263冊
図書館推薦図書	502冊
継続購入図書	315冊

### ●寄贈図書

#### ○大学関係者著作図書

名誉教授 上野辰美

[共著] 教職課程研究 第1集～第12集 姫路獨協大学教職課程研究室

文化教育学部助教授 松山郁夫

[共著] ライフサイクルで学ぶ生活福祉／村上利範編著 建帛社

[共著] 障害のある子どもの福祉と療育／松山郁夫、米田博編著 建帛社

[単著] 子どもの発達援助の実際と福祉／松山郁夫 中央法規出版

経済学部教授 ラタナーヤカ

[単著] Lost Opportunities Sri Lanka's Economic Relationship with Japan / Piyadasa Ratnayake Karunaratne & Sons

経済学部助教授 常盤洋一

[単著] 人口データの蓄積と分析／常盤洋一 慧文社

経済学部助教授 大坪稔

[単著] 日本企業のリストラクチャリング／大坪稔 中央経済社

理工学部教授 中原徹

[共著] Proceedings of the 2003 Nagoya Conference Yokoi-Chowla Conjecture and related problems / Katayama, Shinichi ; Levesque, Claude; Nakahara, Toru (ed.) Saga University, Faculty of Science and Engineering

#### ○その他

文化教育学部教授 白石正明

山河ヨ、我ヲ抱ケー発掘・韓国現代史の群像〈上〉／高賛侑著、ハンギョレ新聞社編集  
解放出版社

文化教育学部教授 成富宏

古賀和夫画集／古賀和夫 古賀和夫

文化教育学部教授 早瀬博範

あえて問う英語教育の原点とは／山家保先生記念論集刊行委員会編著 開拓社

文化教育学部教授 古川末喜

管理会計の国際的展開／西村明、大下丈平編 九州大学出版会

周作人と江戸庶民文芸／呉紅華 創土社

経済学部教授 ラタナーヤカ

The distant neighbours / W.D.Lakshman Karunaratne & Sons

経済学部助教授 安田伸一

数学の問題の発見的解き方1、2／G.ポリア著、柴垣和三雄、金山靖夫訳 みすず書房

医学部教授 山田茂人

ギャンブル依存とたたかう／帚木蓬生 新潮社

医学部教授 木林和彦

死体検案マニュアル／日本法医学会 日本法医学会

医学部教授 新地浩一

知られざる「自衛隊災害医療」／白濱龍興 悠飛社

医学部助教授 松尾清美

校庭の雑草図鑑／上赤博文 佐賀県生物部会

理工学部教授 門出政則

Second International Conference on Urban Earthquake Engineering / Center for Urban Earthquake Engineering Tokyo Institute of Technology CUEE Tokyo Institute of Technology

Radiation and humankind / Shibata, Yamashita, Watanabe & Tomonaga Elsevier

理工学部教授 豊島耕一

(DVD)WHAT I'VE LEARNED ABOUT U.S. FOREIGN POLICY / Dorerl, Frank

Frank Dorrel

野副稔

The Downing Street years / Margaret Thatcher HarperCollins

White House years / Henry Kissinger Little, Brown

Harpoon / C.W. Nicol Putnam

Musashi / Eiji Yoshikawa, Charles S. Terry trans. / Kodansha International

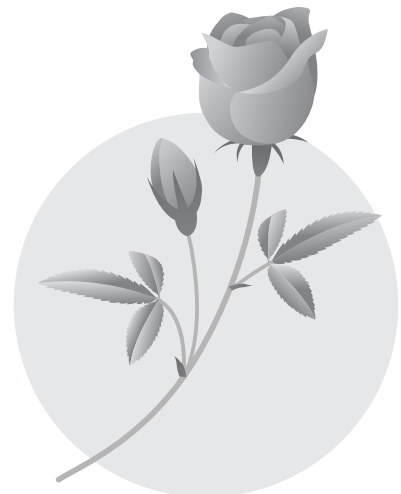
藤岡祐貴子

地獄遊記／済公活仏著、張金城、森川篤子訳 三清道觀少林寺活佛院



- 天堂遊記／濟公活仏著、張金城、森川篤子訳 中国嵩山少林寺  
真理真伝／濟公活仏著、張金城、森川篤子訳 中国嵩山少林寺  
地獄十殿閻王／濟公活仏著、張金城、森川篤子訳 中国嵩山少林寺  
伝記南海古佛・觀世音菩薩・妙善への道／濟公活仏著、張金城、森川篤子訳 三清道觀少林寺  
活佛院  
達摩守玄寶傳／濟公活佛 三清道觀少林寺活佛院
- 瀧之上康元  
日本のチャの品種／瀧之上康元、瀧之上弘子 瀧之上康元、瀧之上弘子
- 岸恵子  
戦争でだれが儲けるか／澤昌利 スペース伽耶  
未来をひらく歴史／日中韓3国共通歴史教材委員会編著 高文研
- 大石政隆  
人生ふさぎこんじゃおしまいよ／大石政隆 西日本新聞社
- 井手久美子  
佐賀錦の形／井出久美子、井出美弥子 井出久美子
- 井手美弥子  
比較生活文化研究 第11号／日本比較生活文化学会編 日本比較生活文化学会
- 乗田知子  
漢詩集 一隅真／松雪彩 乗田知子
- 西山正廣  
The Story of Jiro／Kojin Shimomura, Masahiro Nishiyama trans. 大同印刷
- 富岡行昌  
松浦党研究の歩み／富岡行昌 富岡行昌

(敬称略)



## ● 図書館統計 平成14年度～平成16年度 ●

### 1. 蔵書統計

①年度別蔵書冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
14年度	本館	409,510	190,831	600,341
	医学分館	52,636	47,225	99,861
15年度	本館	388,223	180,912	569,135
	医学分館	57,376	42,324	99,700
16年度	本館	394,042	182,580	576,622
	医学分館	59,274	42,606	101,880

②年度別受入冊数

単位：冊

年度		和書	洋書	合計
14年度	本館	5,884	3,289	9,173
	医学分館	1,428	355	1,783
15年度	本館	5,218	2,532	7,750
	医学分館	1,223	326	1,549
16年度	本館	4,512	1,881	6,393
	医学分館	1,898	282	2,180

③年度別雑誌所蔵種類数

単位：種

年度		和書	洋書	合計
14年度	本館	6,111	2,841	8,952
	医学分館	958	977	1,935
15年度	本館	6,144	2,858	9,002
	医学分館	997	960	1,957
16年度	本館	6,160	2,873	9,033
	医学分館	1,001	981	1,982

④年度別雑誌受入種類数

単位：種

年度		和書	洋書	合計
14年度	本館	3,467	1,016	4,483
	医学分館	481	393	874
15年度	本館	3,440	906	4,346
	医学分館	647	407	1,054
16年度	本館	3,390	885	4,275
	医学分館	641	412	1,053

### 2. 図書館資料費

単位：千円

年度		図書館備付		研究室備付		合計
		運営経費	その他の経費	運営経費	その他の経費	
14年度	本館	16,636	0	151,232	0	167,868
	医学分館	58,134	0	2,285	0	60,419
15年度	本館	17,465	0	131,585	0	149,050
	医学分館	59,695	0	1,984	0	61,679
16年度	本館	15,138	0	107,124	8,164	130,426
	医学分館	56,761	0	932	0	57,693

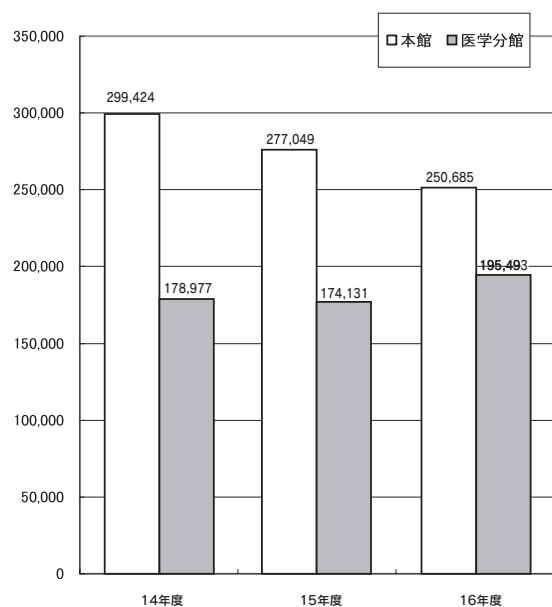
## 3. 利用統計

## ①利用対象者数

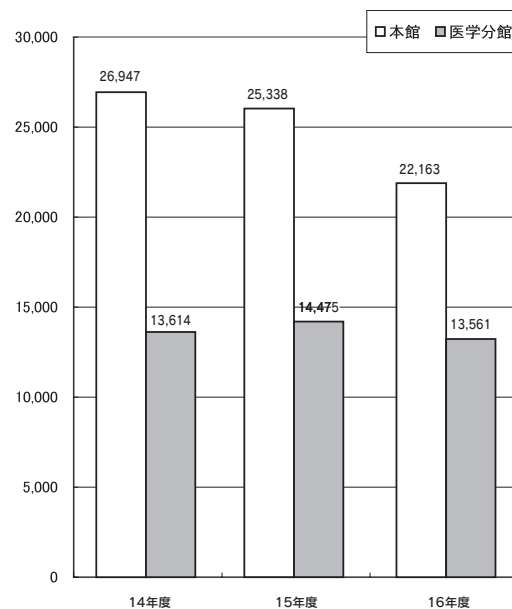
5月1日現在 単位：人

年度		学生	教職員	その他	合計
14年度	本館	6,515	1,029	272	7,816
	医学分館	950	1,395	-	2,345
15年度	本館	6,546	1,223	290	8,059
	医学分館	962	1,320	-	2,282
16年度	本館	6,467	1,448	260	8,175
	医学分館	978	1,204	-	2,182

## ②入館者数



## ③館外貸出状況



## ④学部別貸出状況（本館）

年度	文化教育学部		経済学部		理工学部		農学部	
	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)	貸出者数(人)	貸出冊数(冊)
14年度	3,309	6,219	1,539	2,738	6,338	10,774	2,662	4,396
15年度	3,253	6,152	1,430	2,495	5,956	9,872	2,295	3,700
16年度	2,717	4,966	1,489	2,501	5,373	8,692	2,017	3,229

## ⑤分野別貸出状況（本館）

単位：冊

年度	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	雑誌等
14年度	679	735	1,169	4,663	9,164	4,898	1,540	985	725	1,244	1,145
15年度	691	551	1,107	3,973	9,069	4,743	1,064	904	734	1,073	1,429
16年度	523	519	1,015	3,718	7,633	4,153	776	933	578	1,150	1,165

## ⑥各室利用状況（本館）

年度	グループ学習室(回)	閲覧個室(回)	マルチメディアルーム(回)	リスニングルーム(回)
14年度	364	148	1,305	713
15年度	486	103	1,301	737
16年度	377	198	1,122	205

## 4. 相互利用の状況

## ①文献複写件数

単位：件

年度		依頼	受託	合計
14年度	本館	2,301	2,356	4,657
	医学分館	5,157	3,618	8,775
15年度	本館	2,252	1,834	4,086
	医学分館	4,556	3,828	8,384
16年度	本館	1,978	1,046	3,024
	医学分館	4,281	3,456	7,737

## ②相互貸借件数（本館）

単位：件

年度	依頼	受託	合計
14年度	345	307	652
15年度	547	277	824
16年度	437	242	679

## 5. 情報検索の状況

## ①データベース利用統計(平成17年度)

データベース名	NICHIGAI/WEB MAGAZINEPLUS (雑誌記事索引等)	国立情報学研究所 CiNii (NII論文情報ナビゲータ)	ELSEVIER SCOPUS (引用文献データベース)
検索回数	6,260	9,506	1,687

\*平成17年4月～12月の統計

\*SCOPUS(引用文献データベース)は平成17年9月～

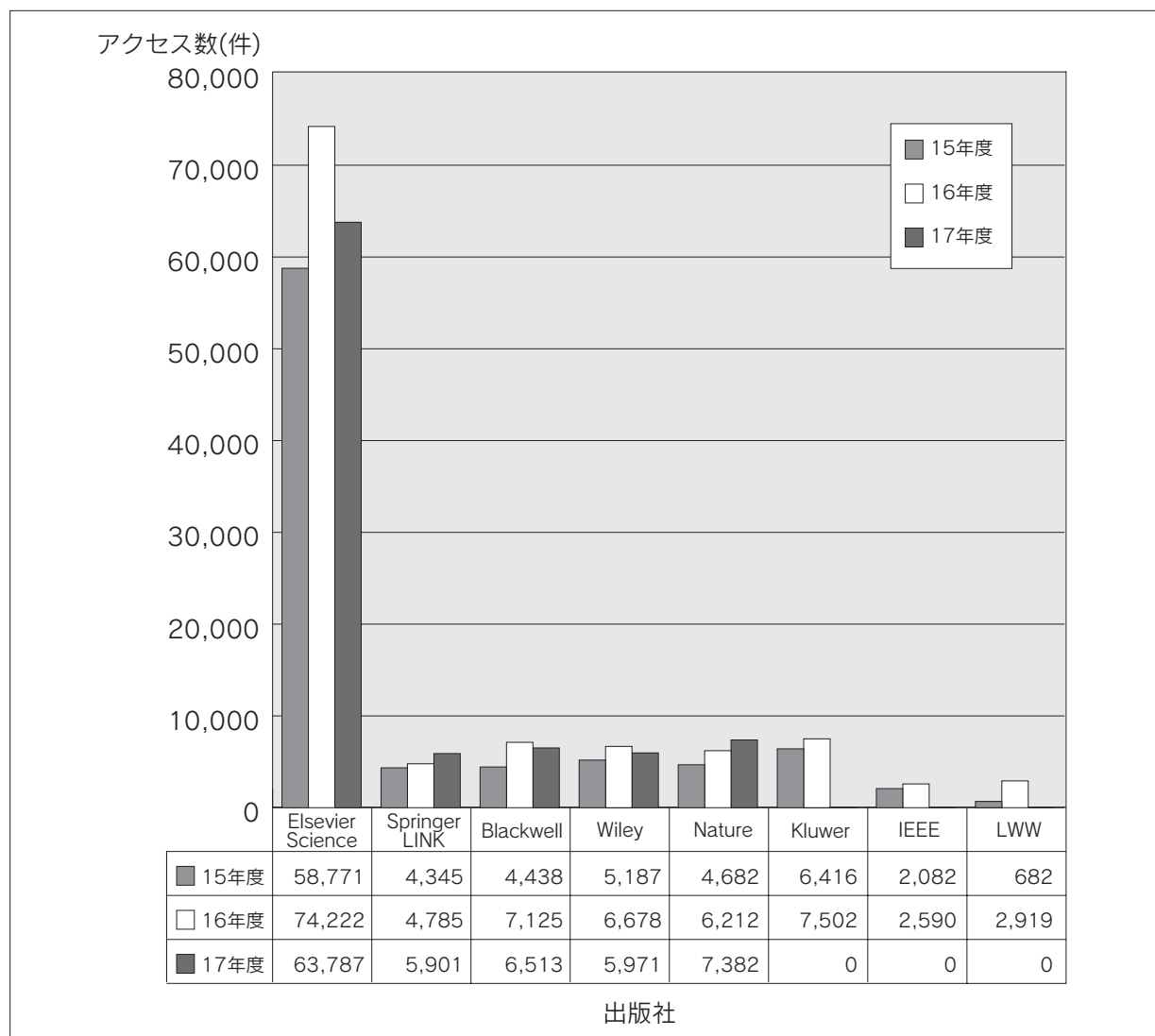
## ②情報検索利用件数(医学分館)

年度	件数
15年度	132,494
16年度	124,338

(PubMed 利用件数は含まない。)



## 6. 電子ジャーナルアクセス状況



\* IEEE及びLWWは平成16年度で中止      \* Kluwerは平成17年2月よりSpringerに統合  
 \* 平成17年度は平成17年4月～12月の統計

## 人事異動

	発令年月日	氏名	新官職	旧官職
配置換	17.4.1	師富春子	学術研究協力部情報図書館 課産学連携・知財係主任	学術研究協力部情報図書館 課医学情報管理係主任
配置換	17.4.1	小林直樹	学術研究協力部情報図書館 課事務員	学術研究協力部情報図書館 課図書情報係事務員
配置換	17.4.1	永安樹	学術研究協力部情報図書館 課司書	学術研究協力部情報図書館 課電子情報係司書
配置換	17.4.1	児玉志帆	学術研究協力部情報図書館 課司書	学術研究協力部情報図書館 課医学情報サービス係司書
配置換	17.4.1	久富真理子	学術研究協力部情報図書館 課事務員	学術研究協力部情報図書館 課医学情報サービス係事務員

# 図 書 館 目 誌 (会議・研修・来客等)

## ● 平成17年 ●

- 3月15日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会 (第1回)  
「附属図書館電子ジャーナル専門委員会のスケジュール(案)について」他
- 4月21日 第35回九州地区国立大学図書館協会総会  
(当番館：熊本大学附属図書館、於ニュースカイホテル)
- 4月22日 第56回九州地区大学図書館協議会総会  
(当番館：熊本大学附属図書館、於ニュースカイホテル)
- 5月17日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会 (第2回)  
「電子ジャーナルに関するアンケートの実施(案)について」
- 5月18日～22日 米国における大学図書館の実態調査 (米国サンフランシスコおよび近郊)
- 5月20日 平成17年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会  
(理事館：西南学院大学図書館、於西南学院大学2号館大会議室)
- 6月1日 附属図書館運営委員会 (第1回)  
「平成17年度年度計画について」他
- 〃 附属図書館主催電子ジャーナルに関する講演会  
「中規模大学図書館における電子ジャーナル整備の諸問題  
—島根大学の導入・運用事例、課題を中心に—」  
講師 島根大学附属図書館専門員 加本純夫氏
- 6月15日～17日 平成17年度目録システム地域講習会 (図書コース) (於：九州大学附属図書館)
- 6月30日 第52回国立大学図書館協会総会  
(当番館：名古屋大学附属図書館、於名古屋大学豊田講堂)
- 7月1日 平成17年度国立大学図書館協会マネジメント・セミナー  
(於名古屋大学附属図書館)
- 7月8日 附属図書館選書専門委員会 (第1回)  
「平成17年度附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 7月14日 附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会 (第1回)  
「貴重資料整備について」他
- 7月21日 平成17年度佐賀県大学図書館協議会  
(当番館：九州龍谷短期大学附属図書館)
- 7月25日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会 (第3回)  
「2006年版電子ジャーナル及び冊子体雑誌の購入について」他
- 〃 附属図書館医学分館運営委員会 (第1回)  
「医学部からの要望による空調時間の延長について」他

- 8月2日 九州大学附属図書館より来館
- 8月3日～5日 第12回医学図書館員基礎研修会（於：京大会館）
- 8月25日 第2回中国四国地区コンソーシアム会議（於：広島大学中央図書館）
- 9月9日 第1回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー  
（於：広島大学中央図書館）
- 9月16日 第53回九州地区医学図書館協議会総会  
（当番館：福岡大学図書館医学部分館、於福岡ガーデンパレス）
- 9月26日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会（第4回）  
「電子ジャーナル購読の財源について」他
- 9月28日 平成17年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会  
（当番館：佐賀短期大学附属図書館）
- // 職場訪問・体験学習（5名：鍋島中学校2年）
- 10月8日～11月6日 「小城鍋島家の近代展」（於：小城市立歴史資料館）
- 10月11日～14日 平成17年度大学図書館職員講習会（於：京都大学）
- 10月12日～14日 平成17年度図書館等職員著作権実務講習会（於：福岡市教育センター）
- 10月18日 附属図書館選書専門委員会（第2回）  
「平成17年度本館備付学生用図書の選定について」他
- // 附属図書館運営委員会（第2回）  
「佐賀大学における電子ジャーナル整備検討報告書について」他
- // 理系図書館開館記念セミナー「九州大学研究者のインパクト」  
（於：九州大学伊都キャンパス）
- 11月16日 附属図書館主催公開セミナー（第1回）  
『大学広報とメディア』  
講師 佐賀大学文化教育学部教授 早瀬博範氏
- 11月16日～18日 平成17年度学術情報リテラシー教育担当者研修（於：大阪大学附属図書館）
- 11月17日 平成17年度九州地区国立大学附属図書館 館長、事務（部・課）長会議等  
（於：九州大学附属図書館）
- 11月18日 附属図書館主催公開セミナー（第2回）  
『地域に生きる』－支え合いの社会を目指して－  
講師 佐賀新聞社報道局長 寺崎宗俊氏
- 11月28日 附属図書館主催公開セミナー（第3回）&ふれあいミーティング  
『テレビの内外』－佐賀放送局の取組み－  
講師 NHK佐賀放送局放送部長 亀井嘉朗氏  
& NHK佐賀放送局局長 阿世知幸雄氏他NHKスタッフ

- 11月29日 附属図書館主催文化講演会  
『芭蕉の内なる西行』  
講師 元佐賀市役所収入役 上野信好氏
- 12月 1日 東京大学生産技術研究所より来館
- 12月 2日 九州工業大学附属図書館より来館
- 12月 7日 第13回九州地区医学図書館員セミナー（当番館：佐賀大学附属図書館医学分館）
- 12月21日 附属図書館医学分館運営委員会（第2回）  
「平成17年度教育用及び研究用図書等の推薦結果について」他

● 平成18年 ●

- 1月12日～13日 平成17年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議  
（当番館：熊本大学附属図書館）
- 1月27日 附属図書館電子ジャーナル専門委員会（第5回）  
「佐賀大学附属図書館電子ジャーナル専門委員会について」
- 2月 9日 長崎大学附属図書館連続講演会第三回講演会（於：長崎大学）
- 2月10日 附属図書館選書専門委員会（第3回）  
「Springer Online Archiveの購入について」他
- 2月14日 附属図書館運営委員会（第3回）  
「佐賀大学附属図書館諸規則の一部改正について」他
- 2月15日 平成17年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会  
（於：佐賀大学附属図書館）
- 2月24日 第2回レファレンス協同データベース参加館フォーラム  
（於：国立国会図書館関西館）
- 3月 9日 附属図書館運営委員会（第4回）  
「佐賀大学附属図書館長又は副館長が任期中で欠員となったときの選考方法  
に関する細則(案)について」
- 3月15～16日 平成17年度佐賀大学事務系職員新採用研修・フォローアップ研修  
（於：菱の実会館）
- 3月22日 附属図書館運営委員会（第5回）  
「佐賀大学附属図書館文献複写規程の一部改正(案)について」他

## 表紙解説

文化教育学部教授(日本近世文学) 井上 敏 幸

徳川将軍家こそが新しい日本の統治者であることを、広く日本全国に知らしめるべく出版されたのが、古活字版真名本『寛永行幸記』であった。寛永三年(1626)秋、揃って上洛していた前将軍秀忠と新将軍家光は、九月六日二条城に後水尾天皇の行幸を仰ぎ、還御される十日までの間、将軍家の力を誇示すべく、盛大なる祝賀の会を催した。江戸時代を通して、天皇の行幸は、この行幸一回限りであった。そうした意味からしても、一大盛事であった今回の行幸のさまは、新しい時代を象徴する活字印刷というメディアによって、つぶさに即報され、将軍家の圧倒的な力が全国に喧伝されることになったのである。このことは、表紙に掲げた小城鍋島文庫蔵の金地院崇伝序の真名本とは別に、烏丸光広の手になる仮名本が、同時に出版されていることから充分推測される。仮名本古活字版『寛永行幸記』は、挿絵入りの三巻の絵巻物に仕立てられて広く流布し、後の整版の時代になってからも繰り返し出版されており、江戸時代を通して読み継がれたことが知られる。これに対して真名本は、古活字版を存するのみで、一般に広く流布した形跡はないようである。おそらく、行幸に参加した公卿や大名を意識して作成されたものだったかと考えられる。

ところで本書には、小城鍋島文庫の創設者といってよい小城の初代藩主「鍋島紀伊守」元茂と、佐賀本藩の初代鍋島勝茂すなわち「鍋島侍従」とが登場する。このことを『勝茂公譜考補』は『寛永行幸記』を引用しつつ、

九月六日、後水尾天皇二条城行幸ノ御迎トシテ、将軍家マツ御参内アリ。

前駆供奉ノ内、左ノ十四番目鍋島紀伊守殿也。

各長刀持、烏帽子着、馬副白丁傘持ヲ召具セラル。

後騎ノ供奉ノ内、左十五番目公(勝茂)御供奉ナリ。

のごとくに説明している。この直前八月二十七日の条には、勝茂が「侍従」に任ぜられ、清涼殿において天盃を賜ったことが記され、また、すぐ後の条には、元茂が「御供奉ニ付テ、両御所様(秀忠・家光)ヨリ御馬一疋ヅゝ拝領」したとあり、鍋島藩が西国雄藩として、ようやく天下に面目をほどこすことができたことを、この『行幸記』は暗示していたといえよう。

江戸時代に出版された本の中で、あざやかな朱色表紙(雷文襷地に菊花艶出し模様)の特大本(縦二九・三糎 横二〇・〇糎)を、大名版と呼んでいるが、本書はまさにその典型である。また、本文に使用されている活字も、朝鮮・中国風を脱し、日本化した美しさを備えたものとなっていると同時に、造本にも、和歌の部分の連綿体の文字の部分は、整版を用いる(左下、透しの光廣の名前と歌の部分)といった、用意周到な配慮がなされていることが特筆される。





---

**ひかり野** 佐賀大学附属図書館報 No.30 2006年3月  
編集発行 佐賀大学附属図書館 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL (0952) 28-8902 FAX (0952) 28-8909  
ホームページアドレス <http://www.lib.saga-u.ac.jp/>  
印刷 株式会社 三光

---